

福井県子どもの成長段階に応じた推奨図書 中学生・高校生編「コレ、ヨモ！」番外編

2024年に出たおすすめ本

福井県では、子どもの読書活動推進の一環として、乳幼児から高校生までの子どもの成長段階に応じた推奨図書を選定し、小冊子やリストの形で公開しています。

その番外編として、2024年に出版された本の中から、中学生・高校生のみなさんへおすすめしたい本を紹介します。

中学生フィクション



アドニスの声が聞こえる

フィル・アール/作
杉田七重/訳
小学館

友情を育む少年とゴリラに戦火がせまる。その結末は…

第二次世界大戦中のイギリス。父が戦場に行き、心に孤独と怒りを抱える少年ジョーゼフは、祖母の知人ミセスFに預けられ、空襲の続くロンドンにやって来る。不愛想なミセスFが自分の動物園に残されたゴリラ・アドニスには愛情を示すのにいら立つジョーゼフだが、空襲の夜に目にしたのは、アドニスに向けてライフルを構える彼女の姿だった。

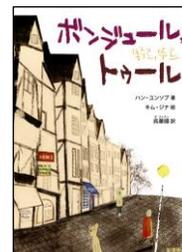


少女ソフィアの夏

トーベ・ヤンソン/著
渡部翠/訳
講談社

ムミン物語の作家が描いたものの中で一番美しい物語

ソフィアはフィンランド湾に浮かぶ岩の島に住む祖母と夏休みを過ごす。おばけ森や洞窟のある入り江の砂浜には様々な草花が生え、樹木が繁り、虫や鳥たちが生きている。その美しい浜辺で二人は愛や悪魔、生き物の話をし、想像の翼を広げる。自分の生き方を通して互いを思いやる会話は70歳という年の差を感じさせない。



ボンジュール、トゥール

ハンユンソプ/著
キムジナ/絵
呉華順/訳
影書房

落書きの謎を追う12歳の少年が出会ったのは、予想外の友情と後悔

古い机に刻まれた「愛するわが祖国、愛する我が家族 生きぬかなければ」のハングルの落書き。引っ越したトゥールの家でこれを見つけた韓国の少年ボンジュは、誰が書いたか探し始める。学校で秘密を抱えた日本人少年トシと出会い、落書きとトシを結びつけ、トシを追求するが、それがトシとトシの家族を追いつめてしまう。

中学生ノンフィクション

AIにはない「思考力」の身につけ方
ことばの学びはなぜ大切なのか？

今井むつみ/著
筑摩書房
(ちくまQボックス)

「ことばの力」をみがいて、「考える力」を育てよう

質問をすればスラスラと答えてくれるchatGPTだが、うのみにするのは禁物。実はAIは「自分で考える」ことができないので、問いの意味を理解していない。では、人間にしかない「考える力」はどのように身につくのか？認知科学の研究者である著者が解き明かす。豊富なイラストと短いページ数で、小説ではない読書にチャレンジできるシリーズの1冊。

女の子でも総理大臣になれる？
国会への道

辻元清美/著
偕成社

国会議員の裏側をおしえます！

差別や不平等をなくそうと活動していたら、国会議員になっていたという辻元清美。なってみたら、女性議員の少なさにびっくり。そこで元総理に「女性でも総理大臣になれますか？」と直撃取材！国会のしくみや議員の実態を易しくおもしろく伝えてくれる。国会議員の昼食メニューや国会中の居眠り議員のことなど…。「へえ～！」がいっぱいの1冊。

中学生から知りたい
パレスチナのこと

岡 真理/著
小山 哲/著
藤原 辰史/著
ミシマ社

パレスチナ問題の根は、ヨーロッパ、アメリカ、日本の歴史の中に

今ガザで何が起きているのか。イスラエル建国の歴史的背景を追い、それ以前のヨーロッパ史までさかのぼると、パレスチナ問題は近代の植民地主義に起因することがみえてくる。中東欧史、ドイツ史、アラブ文学の3人の研究者が、パレスチナの歴史と現在について多角的に対話する新しい視野に立った世界史。考えを深めたい人に。

踊れ!文芸部

キタハラ/著
KADOKAWA



6days
遭難者たち

安田夏菜/著
講談社

女子高生3人が山で遭難!死への恐怖の中で3人がつかんだものは?

日帰りの予定で登った低山で、まさかの遭難!食料は底をつき、携帯電話は繋がらず、身体も極限状態に。死と隣り合わせの6日間に、三人はそれぞれが心の底に閉じ込めていたわだかまりと向き合うことになる。「冒険とは、死を覚悟して、そして生きて帰ることである」という巻頭の植村直己の言葉が胸に響く。

ペンライトを振って踊るのは男子高校の文芸部、なぜ?

文芸部の部員3名から始まったダンスの練習。パフォーマンスフェスティバルに出場する時には20名になる。優勝すれば廃校になりそうな低偏差値男子高校が存続される。主人公川地と幼なじみの沢本の関係。クラスメイトの家庭事情。部室の掃除用具入れに住む謎の中年男の真相。オムニバス風に描かれた色々な物語を楽しむ。



放課後によむ
詩集

小池昌代/編
理論社

ひとりの時間のための「孤独をみがかく」アンソロジー

三好達治、宮沢賢治、まどみちお、茨木のり子、三角みづ記など、日本の近代詩や現代詩、さらに海外詩から選ばれた31編の選詩集。詩人である編者は、「群れからはずれ、孤独」の時間に、自由に詩を読んでみようと言語をかける。各詩の編者のコメントや巻末の詩人紹介、選詩集のブックガイドもうれしい。詩の入門書としてもおすすめ。

高校生ノンフィクション



校正・校閲11の
現場
こんなふう読んで
いる

牟田都子/著
KTC中央出版



ときを感じる
お宿図鑑
スケッチで巡るレトロ
建築ガイド図書

ときやど 吉宮晴紀/著
学芸出版社



中村哲さん殺害
事件 実行犯の
「遺言」

乗京真知/著
朝日新聞出版

言葉の裏側に校正あり

本や雑誌づくりの過程のなかで、なかなか目に触れることがない「校正」の現場。マンガ、レシピ、辞書、Webなど多彩な媒体で働く校正のプロたちに取材したインタビュー集。信頼を守るための厳密さ。何度も登場する「校正が楽しい」という言葉。それぞれの現場での技や思いが語られる。仕事道具も興味深い。

泊まりにいきたくなる!歴史を体験するお宿紹介

建築を学ぶ大学院生の著者が、江戸時代から昭和30年代に建てられた文化財建築やクラシックホテルから「泊まれる宿」35軒を紹介。宿の建物全体を断面のスケッチで描くことで、写真だけでは伝わらない、各宿の個性的な魅力を表現している。「建物用語を学ぶ」「変遷を辿る」などのコラムも楽しい。著者の運営するサイト「ときやど」もあり。

銃撃事件の真相。3年半にわたる取材の記録

2019年、アフガニスタンで起きた人道支援NGO「ペシャワール会」代表・中村哲医師の銃撃事件。不安定な政情のなかで何が起きたのか?防ぐことはできなかったのか?朝日新聞の乗京記者は現地助手とともに3年半にわたる執念の取材を敢行し、真相に迫る。緊迫感にあふれるが、文体は読みやすい。

◆図書館・学校等の方へ

ここで掲載している紹介文とキャッチコピーは、図書館や学校などでの子どもの読書活動に、自由に使用することができます。POPとして本の展示に使用するなど、読書活動にご活用ください。

◆小冊子とあわせてご活用ください

「子どもの成長段階に応じた推奨図書」小冊子(幼児編、小学生編、中学生・高校生編)は、各公立図書館で配布、また、生涯学習・文化財課のホームページにPDF形式で掲載しています。

◆小冊子・推奨図書リスト掲載ホームページはこちら

福井県教育庁生涯学習・文化財課ホームページ「子どもの成長段階に応じた推奨図書(中学生・高校生対象)」

<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/syoubun/dokusyo/suishoutosho-tyuukousei.html>



小冊子